

## 事務事業の見直し意見

### No26 子ども医療費助成事業

総合評価	子ども医療費助成事業については見直し
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"><li>・子ども医療費助成費については、支給件数の増加、制度拡充に伴い平成26年度と平成30年度を比較すると135,731千円増加し、社会保障関係費の増加額の約2割を占めている。また、令和元年8月から未就学児の現物給付が始まり、より気軽に受診できるようになるため、市の財政負担が一層増える見込みであり、財政状況の厳しさが増すと懸念される。</li><li>・以上のことから一定の財政負担が避けられない状況である。そのため、小・中学生の一部負担金については、現行の500円/月から県が基準としている1,000円/月に引き上げられたい。このことによって創出された財源で子育て・教育環境の充実に取り組まれたい。</li><li>・なお、負担金を引き上げることによって子どもの受診抑制につながるのではないかとの懸念もあるが、この引き上げによって受診が抑制されるとは考えにくく、むしろ子どもの受診について親が適切な判断ができるような取組が市に求められている。具体的には、学校を含めた関係機関によって、子どもの健康施策、親の支援を包括的に実施できるようプラットフォーム化し、生駒市独自の子どもの健康管理に取り組まれたい。</li></ul>
担当課	国保医療課
R1 予算額	369,633 千円